

然別川と十勝平野

十勝川の河川作用と、然別川を含むその支流は、今日の十勝平野形成において大きな役割を果たしました。河川は通り過ぎる陸地を浸食し、火山堆積物を運んで拡散し、沈殿物を堆積させました。何百年もかけて、このような地質学的プロセスにより、かつては海だった場所に湿地帯が出来ていました。このようにして形成された湿地帯が、十勝平野を生み出しました。

川が地形を形作る

河川が地形を浸食し、沈殿物を運んで堆積させ、新たな地形が生まれます。

浸食

河川が川底や川岸を浸食し、流れの中で地形を形作ります。標高の高い場所では、険しい山の傾斜部を流れる中でほぼ縦に陸地を浸食し、深い渓谷などが掘られていきます。標高の低い場所では、流れが緩慢になるため、浸食は横向きと縦向きの両方になり、河川は広がります。

運搬

河川は、砂、火山灰、砂利、小石、小岩といった沈殿物を運びます。河川の流れが速いほど、運ばれる沈殿物の量も増えます。標高が低い場所では、沈殿物の堆積が始まり、新た

な地形が生まれます。

堆積

河川は、流れが緩慢になると沈殿物を堆積し、扇状地、曲がりくねった流れ、土手、氾濫原、三角州といった地形が生まれます。より幅広く、浅くなるにつれて流れは緩慢になり、より平らな標高の低い場所へ到達し、浸食物が増えるにしたがって同じことが起こります。河川では、まず大きく重い物が堆積し、それから砂や沈泥など、小さく軽いものが堆積していきます。

湾から平野へ

然別川が山々から流れて標高の低い場所へ到達すると、流れは緩慢になり始めました。土地はより平らで開けた場所になり、河川は土地の表面を這うようにあらゆる方向へと自由に流れ、沈殿物が堆積していきました。堆積される沈殿物が増えると、川底は上昇し、川岸は氾濫しました。新たなルートが生まれる度、海へ向かってさらに遠くへ流れる度、河川の沈殿物はより広いエリアで堆積し、この過程が繰り返されました。これにより、大きな扇状地が形成されました。時間の経過とともに、十勝川と然別川を含むその支流では、湾を埋め尽くすほどの沈殿物が堆積しました。時間をかけて堆積した大量の沈殿物は、農業に適した広大な平野を生み出したのです。